

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年4月13日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
<p>検証テーマ： オープニング、G20、沖縄県北谷町のアパートでアメリカ海軍の男性と日本人女性の死体が発見 元駐イラン大使がセクハラ、【現場から、平成の記憶】天井のない監獄ガザ地区、北朝鮮とアメリカ 天皇皇后両陛下が特別展でゆかりの品々を鑑賞、パラリンピックのピクトグラム</p> <p>【特集】 ゴーン事件～深層になにが 【特集】 再延期！イギリスの EU 離脱</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県船橋市で遮断器が切断される ・オープニング ・G20 ・沖縄県北谷町のアパートでアメリカ海軍の男性と日本人女性の死体が見つかる ・元駐イラン大使がセクハラ ・【現場から、平成の記憶】天井のない監獄ガザ地区 ・【平成最後の桜】岡山県倉敷市真備町の桜 ・北朝鮮とアメリカ ・天皇皇后両陛下が特別展でゆかりの品々を鑑賞 ・パラリンピックのピクトグラム ・東京足立区で廃棄物処理工場が全焼 ・【特集】 ゴーン事件～深層になにが ・【特集】 再延期！イギリスの EU 離脱 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→特に問題なし オープニングで金平キャスターが「ええ、社会にはあからさまな性差別が横行しています。東大もその例の一つです。東大の入学式でそう発言した上野千鶴子名誉教授の祝辞が話題を呼んでいます。一方で被災地を侮蔑するような発言で桜田オリンピック担当大臣が辞任しました。言葉の重みというものを改めて実感させられます。」と発言していた。このシーンに当てられて時間は22秒だった。なお、上野千鶴子名誉教授の祝辞も桜田オリンピック担当大臣の発言もここでのコメント以外では触れられていなかった。放送法上は特に問題は見られなかった。 ・G20：結論→特に問題なし 世界経済にブレーキがかかるなか日本が初めて議長国をつとめた今回のG20焦点はリスク要因となっている米中の貿易摩擦やイギリスのEU離脱に対してG20が結束して対応策を協議できるかであったが、IMF国際通貨基金が会議の直前に経済の先行きについて「今年の後半から回復し来年は高い成長に戻る」という楽観的な見通しを示し、各国から異論も出なかったことから危機感は大幅に薄れ様々な問題への対応は議論されなかったと 		

のことが報じられた。

また、麻生太郎財務相の「(世界経済が) 下振れするリスクはある。しかし、今年の公判から経済成長が緩やかに回復するだろう (との見通しで一致した)」というコメント、黒田東彦日本銀行総裁の「何らかのそのリスクが顕在化して影響が出てきた場合は、あらゆる政策を考慮すべきだということであると思います。」というコメントが取り上げられていた。

報告の土居記者は「危機の芽を摘み取り、世界的な景気後退を未然に防ぐのが G20 の本来の役割ですが、甘い見通しを立てに国際協調を優先する姿からはその存在意義は見えてきません。」とコメントしていた。

このトピックに当てられた時間は 104 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・沖縄県北谷町のアパートでアメリカ海軍の男性と日本人女性の死体が発見：結論→特に問題なし

沖縄県北谷町のアパートで男女二人が血を流して死んでいるのが見つかったこと、男性はアメリカ海軍で女性を刺したあと自殺したと見られているとことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 59 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・元駐イラン大使がセクハラ：結論→特に問題なし

イランに駐在していた日本の元大使が 7 年前に当時の大使公邸で、当時の部下だった女性にセクハラをしたとして、先月刑事告訴されていた事がわかったとことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 61 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【現場から、平成の記憶】天井のない監獄ガザ地区

ガザ地区の現状について VTR で以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「2007 年から続くイスラエルの封鎖によって人や物の行き来が極端に制限されているパレスチナ暫定自治区、ガザ。イスラエルとの境界線では毎週のようにデモが行われ人々は銃撃されます。私達にとっての非日常が日常となるガザは天井のない監獄とも呼ばれます。」

ナレ「今週、行われたイスラエルの総選挙では対パレスチナ強硬派のエタニヤフ首相が再選、中東和平への道には暗雲が立ち込めています。」

"ナレ「平静 26 年 2014 年にイスラエル軍が地上侵攻した際はイスラエル人 70 人近くパレスチナ人 2000 人以上が犠牲となりました。当時 16 歳だったファラ・ベーカーさんは自宅から爆撃の様子を撮影。SNS に投稿し、世界中の報道機関から注目されました。」

ベーカーさんのツイート「涙が止まらない、私は今夜ここで死んでしまうかもしれない。」

ベーカーさん「家も危ないし道の外に出れば狙われます、安全なところはどこにもありませんでした。」

なれ「恐怖の中で生き延びた夜、ベーカーさんの投稿した動画にはある音が収録されていました。暗闇に響くのはイスラエル軍が飛ばすドローンです。あの夜から五年、ベーカーさんが怪訝そうに空を迎えます。取材中、同じような音があたりに響き渡りますがはるか上空を飛ぶドローンは見えません。カメラは別の場所でその姿を捉えています。」

須賀川拓「あそこに見えるね、ドローン、ドローン、やあやあやあ、ちょうど雲の隙間から。」

ナレ「ガザは今もイスラエルの監視下に置かれた監獄なのです。」

"記者「今、見ている方向がガザで、こちらがイスラエル側ですね。」

ベーカーさん「はい、夢にまで見る場所です、歩いていける距離なのにすぐに (イスラエル兵に) 打たれていし

まいます。自分の国に行くことすらできません。」

ナレ「大学で経営学を学びながらパレスチナの窮状を訴えるベイカーさん。生まれてから 21 年間、まだ一度もガザを出ることができていません。」 "

このトピックに当てられた時間は 205 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・北朝鮮とアメリカ：結論→特に問題なし

北朝鮮の金正恩党委員長は最高人民会議で演説を行いアメリカ側の譲歩を条件に三回目の米朝首脳会談を行う用意があるとの考えをしましたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 77 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・天皇皇后両陛下が特別展でゆかりの品々を鑑賞：結論→特に問題なし

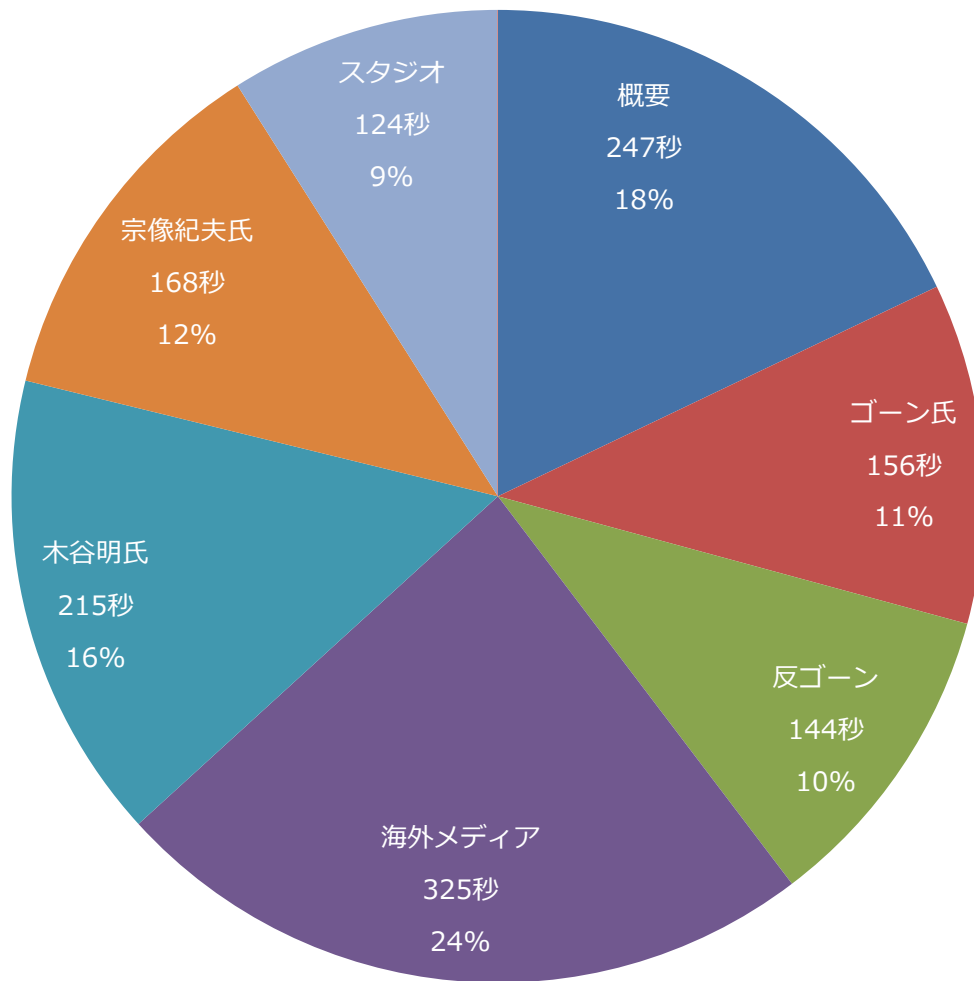
天皇皇后両陛下は今日ゆかりの品々が展示されている特別展を鑑賞されたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 48 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・パラリンピックのピクトグラム：結論→特に問題なし

2020 年の東京パラリンピックまで 500 日の今日、大会で行われる各競技を絵文字で表現したピクトグラムが発表されたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 59 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 ゴーン事件～深層になにが：結論→特に問題なし

ゴーン事件についてが特集されていた。この特集に当てられた時間は 1379 秒で、概要を伝える場面、VTR でゴーン氏の主張を伝える場面、ゴーン氏への反感を表明する元日産労働者やフランス市民の声を伝える場面、海外メディアの反応を伝える場面、東京高裁の裁判長や最高裁調査官を歴任した木谷明氏へのインタビュー、リクルート事件やゼネコン汚職事件を手がけた元東京地検特捜部長の宗像紀夫氏へのインタビュー、VTR をうけてのスタジオでのやりとりに大別された。その時間配分および比率は以下の通りであった。



VTR では以下に朱記したように取り上げられていた。

【VTR、1】

ナレ「おととい、東京地裁に入るカルロス・ゴーン容疑者の弁護人弘中惇一郎弁護士。同じころ、ゴーン容疑者の妻、キャロルさんも東京地裁へ。」

ナレ「捜査の一環として非公開の法廷で行われた検察による証人尋問だ。そこには弁護人も立ち会った。」

ナレ「今月 4 日、保釈中、異例の逮捕となったゴーン容疑者。検察の事情聴取の要請を拒んだキャロルさんは、夫の逮捕の翌日、フランスに出国したが、わずか 5 日で、日本に戻ってきた。」

弘中惇一郎弁護士「無実を明らかにするために、記憶通りにきちんと話をしますとおっしゃいました。」

ナレ「激しさを増すゴーン容疑者と東京地検特捜部の攻防。逮捕。そして家宅捜索で何が行われていたのか？」

ナレ「報道特集は、特捜部による家宅捜索での押収品のリストを独自に入手した。」

【VTR,2】

ナレ「今週、火曜日に公開されたカルロス・ゴーン容疑者の反論動画。最初に主張したのは、」

ゴーン氏 (映像) (字幕)「すべての容疑について 私は無実です。そしてそれらの嫌疑に基づいて私に対してなされている非難についても、また事実無根です。」

ナレ「この動画が撮影されたのは、今月 3 日。その翌日、」

記者「東京地検特捜部の係官が、ゴーン被告の住むマンションに入っていきます。」

ナレ「作業着姿に変装したあの保釈から、1 カ月もたたずに、4 回目の逮捕となったゴーン容疑者。動画では、事件に対する具体的な説明は無く、日産の幹部を批判する場面も。」

ゴーン氏の動画（字幕）「これは「陰謀」「謀略」「中傷」です。なぜこのようなことが起きたのか。それはなによりもまず「恐れ」があったからです。」

ナレ「この動画を見て、怒りをにじませるのは、日産の元社員坂ノ下征稔さん。坂ノ下さんが 35 年間務めた東京。村山工場は、ゴーン改革によって、2001 年に閉鎖された。当時、労働組合の委員長として、反対闘争の先頭に立っていたが、坂ノ下さんを含め、多くの社員が退職や、不本意な異動を余儀なくされた。」

坂ノ下さん「工場閉鎖の一番中心かね、遠い工場に転勤せざるを得なくなって、苦しい思いもしましたけれども、そういう人たちの苦しみというかね、努力というか、それを思うときにね、この今回のゴーン氏の所業というのは、到底許せないものだというふうに思いますね。」

ナレ「ゴーン容疑者は動画でこうも話した。」

ゴーン氏（映像）（字幕）「私は日本を愛し、日産を愛しています。」

坂ノ下さん「これを聞いてね、ふざけるんじゃないよっていうような。自分の懐に巨額の報酬・裏金が転がり込んでくるという意味で日産を愛しているのかなと」

ナレ「ゴーン容疑者は去年 11 月以降、金融商品取引法違反や、特別背任の罪で逮捕・起訴され、108 日間拘留されていた。保釈中の異例の逮捕となった今回の容疑は、いわゆるオマーンルート。事実であれば、巨額資金の私的流用が浮き彫りになる内容だ。」

ナレ「ゴーン容疑者は、日産の子会社、中東日産から、およそ 17 億円を、知人が経営するオマーンの販売代理店に支出させ、そのうち、およそ 5 億 6000 万円を私的に流用した特別背任の疑いで再逮捕された。」

ナレ「さらに、今、東京地検特捜部が全容解明を進めているのが、どのようにしてどこにカネが流れたのか。ということだ。関係者への取材によると、オマーンの販売代理店からは、複数のペーパーカンパニーを経由して、ゴーン容疑者が実質的に保有するペーパーカンパニーに送金され、息子やキャロルさんが経営する会社に数億円ずつが渡されていた疑いが出ている。」

ナレ「また、キャロルさんの会社に流れた資金の一部は、SHACHOU 号と名付けられた大型クルーザーの購入費用に充てられたという。」

ナレ「フランス、オーベルジャンビル。かつてゴーン容疑者が会長兼 CEO を務めていたルノーの企業城下町の一つだ。工場で働く人々は、どう見ているのか。」

ルノー元社員（吹替）「ゴーンが報道のようなことをしていたとしたら、それは窃盗です。汗をかいて部品を組み立て、働いているのは、労働者です。ゴーンは経営者ですから、そんな過ちを犯してはならないのです。」

ルノー社員（吹替）「ゴーンは自分の口座と会社の口座を混同し、もっと稼ごうとしていました。ものすごくお金持ちなので、卑劣なこともできるんです。」

ナレ「ゴーン容疑者への厳しい声が多かった。さらにキャロルさんが、フランスの政府や世論に支援を訴えたことについても、ルノーの現役社員はこう指摘する。」

ルノー社員（吹替）「ゴーンに対する捜査は、日本よりフランスのほうが緩いと思います。だから彼女はゴーンをフランスに連れて帰りたいのです。日本の検察は厳しいので、喝采を送りたいです。」

ナレ「一方、日本の刑事司法の在り方については、海外から厳しい視線が注がれている。」

ゴーン氏（映像）（字幕）「私の心からの願いは、公正な裁判を受けることです」

ナレ「ゴーン容疑者側は、国際世論に訴える姿勢を見せている。会見に詰めかけた外国人記者からは」

金平「4回目の逮捕と家宅捜索、こういう一連のやり方はヨーロッパでは？」

イタリア「スカイ TG 24」のピオデミリア特派員「考えられないですね、まず、保釈してから、6日で再逮捕するのは、もし違反してないでしょ。その条件に関しては、もう一回逮捕されるのは、まず、ありえない。」

アメリカ「デイリービースト」のジェイク・エデルシュタイン記者「4回も？あの非常に異例です。だから弘中弁護士さんが、いうように、特定の目的があって弁護の妨害という目的でやったとか思えないんですよ。人質司法は時代遅れですよ。先進国にふさわしくないです。」

ナレ「関係各国はトップニュースで伝えた。出身国レバノンでは。」

レバノンメディア「LBCI」(字幕)「カルロス・ゴーン氏が不正な資金を受け取ったとされるのは、日産の裏切りによるものであることが明らかになりました。」

仏メディア「M6」(字幕)「ルノー・日産トップのカルロス・ゴーン氏は、陰謀、裏切りというメッセージを公表しました。」

仏メディア「M6」(字幕)「ゴーン氏は会見で世論を勝ち取るための反撃に出ました。」

ナレ「フランスに出国したキャロルさんも、自宅に特捜部が入った際の様子をフランスメディアで訴えた。」

仏ラジオ「DOCUMENT RTL」にてキャロルさん(字幕)「彼らは早朝6時10分前にドアのベルを鳴らし、「あなたを再逮捕する」と言いました。カルロスは急いでシャワーを浴び、チョコレートをポケットに入れようとしたのですが、彼らは「ダメだ」といったのです。「ここは日本、日本の法律だと」私は感情的になって泣き出しましたが、夫は堂々と前を向き、出ていったのです。」

ナレ「キャロルさんによると、特捜部の二つの部屋を少なくとも20人がかりで捜索し始めたという。」

ナレ「これは、報道特集が入手したその時の押収品の記録だ。押収の対象は、手帳、書面、ノートをはじめ、監視カメラの映像を収録したレコーダー。パソコン。4台の携帯電話。USBメモリ、キャロルさんのレバノンのパスポートにまで、及んでいる。」

ナレ「弘中弁護士は、外国特派員協会でご訴えた。」

弘中弁護士「逮捕に関する被疑事実とは、何の関係の無いものが、多数押収捜索押収されました。このような違法不当な捜査に対しては、必ず国内外の世論の批判を浴びるでしょうし、弁護団としても、あらゆる方法をもって、争っていく予定です。」

ナレ「キャロルさんは日本の検察当局を、ラジオでご批判した。」

キャロルさん(字幕)「彼らはマンションに4時間いました。トイレに行こうとしたら一人の女性が一緒にバスルームに入ってきました。そしていちいちボディチェックをするのです。なぜこんな屈辱的な扱いを受けるのか、わかりません。テロリスト扱いでした。」

ナレ「しかし、フランスでは、ゴーン容疑者と距離を置く動きが出始めている。今回の再逮捕の直前、ルノーは内部調査によって、オマーンにある販売代理店への不審な支払いが見つかり、フランス検察当局へ通報したと声明を発表した。さらにルメール経済相は、キャロルさんが政府の積極的な協力を求めていることについて、「ゴーン氏を守るために、政治的な介入が最善策とは思わない」と述べ、政府が関与することに否定的な考えを示した。」

ナレ「フランスの有力紙、フィガロの東京特派員、レジス・アルノー記者に聞いた。」

レジス・アルノー氏(吹替)「正直に言って、ゴーン氏でそれほど人気はありません。」

金平(字幕)「奥さんのキャロルさんも？」

レジス・アルノー氏(吹替)「彼女もそれほど人気はありません。マクロン大統領がゴーン氏を助けるべきだったかという世論調査に75%の人々がNoを示しました。罪を犯したなら、監獄に入るべきだ。金持ちはたまに捕

まったって、いいんだという感情があるんです。ひどい扱いを受けていることに同情はあるでしょう。しかし共感はありません。」

ナレ「しかし一方で、日本の司法制度については、こう指摘する。」

レジス・アルノー氏（吹替）「日本の司法制度のことを聞いて、フランス人はとても驚いていると思います。フランス人だからということではなく、日本人だってこのような勾留や、刑事制度のことを知ったら、驚くと思います。日本はとても平和で安全だし、人々は親切で礼儀正しいのですが、そんな日本にこんな勾留や処罰のシステムが、あることは知られていないのです。」

ナレ「ゴーン容疑者をめぐる事件では、日本の刑事司法の在り方も問われている。裁判官、検察官の OB に聞いた。」

ナレ「東京高裁の裁判長や、最高裁調査官を歴任した木谷明氏。」

膳場「逮捕から、108 日勾留されて、これをこう長すぎるといふ国際的な批判もありますよね？」

木谷氏「それは私も、長すぎると思います。ただそれはね、今までの日本の刑事司法のやり方でやると、むしろ短いんですよ。短くなったにも関わらず、外国から見れば長すぎるんですね。で、私の目で見ても、あんなに勾留する必要は本当は、ない。人間って弱いもんでね、現在の苦境から、早く脱したいと思う気持ちにどうしてもなります。それで本当のことは裁判長に言って、訴えれば裁判官がちゃんと聞いてくれるんじゃないか。みんな思っちゃうんですよ。ところが実際は裁判官は、捜査官のことを丸のみにしちゃうから、救われないんですけどね。」

膳場「どれぐらいが適生だと感じますか？」

木谷氏「だって、日本の場合ね、起訴前の保釈は無いということだから、起訴されたらね、すぐに保釈すべきなんですよ本来。」

ナレ「木谷氏は、一歩的な情報が先に流れ、有罪との先入観ができてしまうことに、危機感を抱いている。」

木谷氏「捜査当局が、一方的な情報によって、まああの、有罪視報道っていうかね、もうこれは犯人、これは間違いないというような情報を、垂れ流してしまっ、まあマスコミを通じて、国民もみなですね、彼はもう有罪なんだというふうに判断させるような、状況を持っていますからね。有罪視報道ってやっぱり恐ろしいんですよ。マスコミは一致して、これはもう間違いないと有罪間違いないと真っ黒だという形の報道をするわけです。それで国民みんなあそう思っちゃうわけですよ。ところが無罪になると、警察はなぜ間違えたんだとって、逆に今度はマスコミがね、検察を責めるんですけども、どうもね、その辺がちょっと問題があるとおもいますね。」

ナレ「リクルート事件や、ゼネコン汚職事件など、大型事件を手掛けてきた元東京地検特捜部長の宗像紀夫氏」

膳場「長期勾留することで、精神的に追い詰められて、あらぬ自白をするということも、これまでの司法の中では、少なからずありますよね。」

宗像氏「それはね、捜査する側が求めていることって一切ないんですよ。よく最近人質司法なんて言いますが、いれといて認めさせるそういう意図は全くないですね。証拠隠滅されては困るということで、しかもこれ検察がやっているというよりも、裁判所が判断するんですからね。」

膳場「そうですね、判断は裁判所」

宗像氏「保釈するか、しないか、勾留するか、しないか、その外国ね、人たちにいろんなことを非難されるいわれは全然ないと思ってる。日本ほどきちっと司法手続きに従ってやっている国はないんですよ。」

ナレ「ゴーン容疑者の保釈中の再逮捕は、検察としてはやむを得なかったと話す。」

宗像氏「僕らは、あの現職の検事の頃は、まだ事件が他にあるから、保釈してもまた逮捕になるよと、だからちょっと控えてくださいとでふつうは控えてくれるんだけど、」

膳場「保釈という判断自体が、違ったんじゃないかという」

宗像氏「検察の意見はおそらく反対意見を出してますから、裁判所がそれに従ってくれば、いいんだけど、最近裁判所も特捜部、検察の言いなりにはならない感じになってきてますんで、」

膳場「慣例としては、裁判所は検察のことをまあ、ほぼ聞いていた？」

宗像氏「まあ、それは検察の方の、主張に合理性があったと、我々はそう判断しますけれども、ですから裁判長がそれを理解してくれてと、いうことだと思うんですけども、」

ナレ「ゴーン容疑者の弁護団は、再逮捕の時の押収品には、裁判準備のメモも含まれていて、弁護権の侵害だと批判している。このことについて、宗像氏は」

宗像氏「それは現場の言った人の判断で、関連性があると、いうものがあれば、一瞬そこにいる人のものも含めて、あの押収できるんですよ。だから、ある必要があれば、返還すると、中身見ちゃったのはけしからんといわれても、そこは困るところですけどね。ええ。あの検察やった経験からして、人権なんかどうでもいいと考えているわけでは検察は全然ないんですよ。あのやっぱり、人権は尊重してやっていかなければいけないし、ただまあ事件のせいしっているか、あの反社会的な事件がこのまま放置されていいのかという観点ももちろん必要なんで」

ナレ「一方の木谷氏、裁判官は、無罪判決を下したり、勾留請求を退けたりするなど、検察の主張に反する判断をすることの難しさについて、こう語る。」

木谷氏「あの一やっぱりね、付度するんですよ。付度。実際にそう言う風にひどい処遇を受けるんじゃないかと、というようなおそれだね。一般の裁判官と、あまりにも違う、やり方をしているとね、すると目立っちゃうんですよ。その後干されちゃった人もいます。それは知ってます私も。だからちょっとその辺は、世界を生きていくには、難しい問題がありますよ。うん」

膳場「人質司法といわれる身柄を拘束しているものが、これをきっかけに転換していくか？」

木谷氏「それは簡単にはいかないですよ。もう何十年もかかって、作り上げてきた検察の戦略ですからね、そう生易しいものじゃないと思いますよ。それからだから、いろいろな場面で弁護人と検察の血みどろの戦いは続きますね。」

VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「えーさて今回は、元東京高裁裁判長の木谷さん。それから元東京地検特捜部長の宗像さん。立場の異なるお二人、このお二人とも非常に率直に日本の司法の場で行われてきた慣習について、話してくださいましたよね。」

金平「そうですね、あの一率直でしたよね。あの特に木谷さんがね、裁判官もね付度するんですよって言う風に発言したのがちょっと正直驚きましたね。」

膳場「ですね、まあそんな中、今回のゴーン氏の再逮捕を巡っては、昨日検察側がゴーン氏の勾留を 10 日延長したいと、申請したのに対して、裁判所は異例の、8 日延長という判断を示しましてね、これはなんか変化の兆しだといえるんでしょうかね？ どう見ますか？」

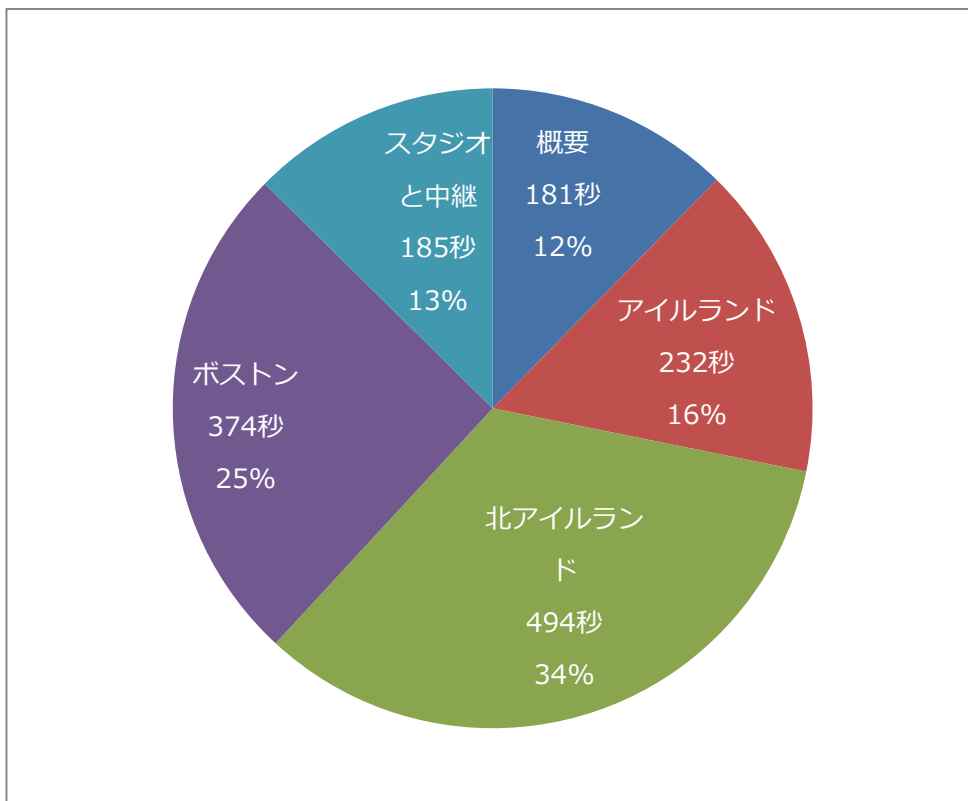
金平「今異例のって言う風におっしゃいませけど、その私たちもね、10 日間の勾留請求が有ったら、認められて当然とどっかで思い込んでる節が無かったかどうかというのを考えてみるべきだと思うんですよ。あのデュエプロセスって言葉があるんですけども、何人も方が定める適正な手続きによらなければ、生命・自由・または財産を奪われないうってそういう減速なんです。これは今回のその、こういう原則が、守られていないんじゃないかと、いうふうな批判が内外からこう寄せられてたんってことなんですけども、こういう問題が出てきた背景っていうのは、これはカルロス・ゴーン氏がですね、日本人ではなくて、外国人だってことで、なおかつ活動の舞台っていうのが海外にまたがっているということで、そのいわゆる日本の検察、司法、裁判所のムラ社会

ですね、そこだけで通用するルールでは、国際社会からの理解が得られないんじゃないかとまあそういう見方なんですね。あの一元検事の宗像さん非常に率直にお話をいただきましたけれども、その最近は裁判所も特捜部・検察の言いなりにならない感じになってきてますなんてねえ、なんかけしからん見たいなニュアンスで発言されてましたですけども、むしろそれは、司法全体がいい方向に変わる兆しじゃないかと私は思いますけどね。」

放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】再延期！イギリスの EU 離脱

イギリスの EU 離脱再延期について取り上げられていた。この特集に当てられた時間は 1466 秒で、概要を伝える場面、アイルランド、北アイルランド、グレートブリテン島のボストン、それぞれの地域の人々の声を伝える場面と、スタジオと中継でのやり問の場面に大別された。時間配分と比率は以下の通りであった。



【VTR,1】

ギター演奏者 (字幕) 「離脱はしないぞ！離脱はしない！」

"男性 (吹替) 「延長されたので、残留派にとっては良かった。」

女性 (吹替) 「唯一の道はメイ首相を追い出すこと。今日にでも、明日にでもさっさと辞任してもらいましょう。」

"

"ナレ 「これまで、イギリス議会は、EU 離脱の条件などを定めた協定案について、なんども、」

イギリス議会議長 (字幕) 「反対多数で否決」

ナレ 「否決を繰り返し、何も決められない状況が続く。今回メイ首相は、6 月末までの延期を申し入れていたが、さらに先に 10 月末になったのは、EU 側が短い延期の繰り返いを嫌ったためだった。」 "

トウスク EU 大統領 (字幕) 「イギリスの友人へのメッセージで締めくくりたい。どうかこの時間を無駄にしないでほしい。」

ナレ「イギリス議会が、離脱協定を承認すれば、期限前でも離脱ができる。」

イギリスメイ首相（字幕）「我々はできるだけ早く EU を離脱する必要があります。」

ナレ「しかし、離脱を巡るイギリス政治の混乱は、収まりそうにない。その最大の理由の一つが、アイルランド島にある。イギリス領の北アイルランド。そして、地続きのアイルランド共和国との、国境問題だ。」

【VTR、2】

ナレ「島の北側はイギリスの北アイルランド。南はアイルランド共和国。南のアイルランド側にある国境の街、ダンドーク。」

日下部「えー北アイルランドとの国境からほど近いところにあるですね、こちら蒸留所なんですけど、アイルランドで 2 番目に大きい蒸留所だということなんです。こうやってウイスキー用の樽が積み上げられています。」

日下部「えーこちら並んでる 3 つの大きい蒸留器が、モルトウイスキー用ですね。そして、こっちの縦長ののが、グレンウイスキー。そしてこちらがジンですね。ここでは 3 種類のまあ蒸留酒を作っているということですね。」

ナレ「この蒸留所にとって、イギリスの EU 離脱は切実な問題だ。」

ナレ「グレンウイスキーを作るときに欠かせない、トウモロコシ。現状ではイギリスもアイルランドも EU の関税同盟に入っていて、フランス産のトウモロコシは、北アイルランドの港まで運んで、税関を通さず、陸路で輸入していた。しかし、合意なき離脱になると、北アイルランド国境で、税関を通す必要が生じてくる。このため、1 年半前、フランスから直接船で、地元の港に運ぶようになった。」

蒸留所技術責任者ブライアン・ワッツ氏（吹替）「今はフランスから独自のルートを築きました。こちらのほうがすべてにおいていいので、以前のルートに戻るつもりはありません。」

"日下部「ブレグジットで何が起こるかかわからないから 18 カ月前に、変えたわけですね？」

ブライアン氏（吹替）「まだどうなるかは、わかりません。合意なき離脱になるか、それとも、何らかの関税同盟ができるか分からないので。会社としては、備えておくしかないんです。」"

ナレ「課題は原材料の問題だけにとどまらない。」

日下部「今、ちょうどこちらではですね、お酒を造る際に出てくる廃棄物、麦やトウモロコシの廃棄物ですけども、これがですね、家畜の飼料にですねとてもいいんだそうです。そしてこの蒸留所では、こういった廃棄物をあちらの山々が見えますけれども、北アイルランドの農家に売ってるそうです。」

ナレ「これまで、麦、トウモロコシの廃棄物が、家畜の飼料として北アイルランドの農家に売っていたが、合意なき離脱で国境に税関ができると、税金がかかるなど、飼料を売ることが、今よりも難しくなる。この状況にビールメーカーのトップに聞いた。」

日下部「イギリスの EU 離脱によってですね、ティームさんのビジネスには、損害が大きい、悪影響がでると思いますか？」

ジョン・ディーリング会長（吹替）「今は陸路で北アイルランドに運んでいますが、目に見える形で国境が作られたら、できなくなるかもしれません。心配なのは、ビジネスより、政治や社会的な問題です。ビジネスは何が起きててもどうにかかります。」

ナレ「EU 離脱による政治的、社会的な問題とは、何なのか。今度は、北アイルランド側に入って、取材した」

日下部「えー私が、立っているのは、イギリスを構成する北アイルランドですね。そしてすぐ向こうがアイルランド何ですけども、国境を示すようなものはここには一切ありません。看板も見当たりませんね。」:

日下部「これもアイルランドですね。とにかくイギリスと EU ナンバーのアイルランドの車がですね、何のチェックもなくこうやって、行ったり来たりしています。」

ナレ「国境線からおよそ 3 キロの街ニューリー。イギリスが離脱した場合、EU に最も近い街になる場所だ。」

"日下部「Hello！」

男性「Hello！」

ナレ「1884年の創業以来、ニューリーの中心部で代々靴屋を営んできたデクランさん。早速国内外のブランドを扱う大規模ショッピングセンターを案内してくれた。ニューリーはイギリス・ポンドが安かった2000年代、ユーロ圏であるアイルランドから、買い物客が押し寄せたことでも知られ、今でも賑わいを見せている。」"

"日下部（字幕）「南からも国境を越えて買い物に？」

デクランさん（吹替）「南からも北からも来ます。アイルランド共和国の6割の人が、ニューリーから1時間以内の場所に住んでいます。ここに来れば、なんでも買えます。ニューリーが発展した理由はショッピングです。」

"

ナレ「しかし、この街には、凄惨な歴史があった。1970年代から80年代にかけて激化した北アイルランド紛争。イギリス残留を望む多数派プロテスタント系の住民と、アイルランド統一を求める少数派、カトリック系住民との争いが続き、過激派によるテロも頻発した。北アイルランドだけでも、3000人以上が死亡した。」

デクランさん（吹替）「店の目の前の通りは戦いの最前線でした。銃撃戦や爆撃は日常的。本当にひどい時代を生きていました。それが20年間も続いたんです。北アイルランドの国境地帯で暮らす住民の中で、この問題の影響を受けてない人などいません。」

日下部「もちろん思い出したくないでしょうけれども、このニューリーの日常当時の日常ってというのはどういうものだったんですか？」

デクランさん（吹替）「ほんのわずかな時間、友達から離れた隙に爆発が起き、その友達はいなくなっていました。私たちはひどい経験をしたんです。」

ナレ「治安は不安定なうえに、有力な産業もなく、町は荒廃していたという。しかし、EU誕生の五年後に北アイルランドの和平が成立。ニューリーの街も賑わいを取り戻した。今、デクランさんは何を望んでいるのか。」

デクランさん（吹替）「気持ちとして、私はヨーロッパ人などで、EUを離脱したくはありません。国境を作ったら、私たちは再び暗黒の時代に逆戻りしてしまいます。」

ナレ「北アイルランド最大の都市、ベルファスト。この街もまた、紛争当時多くの犠牲者を出した。」

日下部「北アイルランド紛争にですね、終止符を打ったベルファスト合意から21年が経つわけですけども、驚いたことにこのベルファスト市内には、今ですね、カトリックとプロテスタントを隔てる壁があって、それがこの壁についてるゲートの部分ですね。私が立っているところはですね、カトリックの住民が住む場所あちらから向こうには、プロテスタントの人たちが住んでいます。そして驚いたことにいまも、夜間にはこのゲートを閉められるそうです。」

ナレ「紛争の面影は市内の至る所に今も残る。」

日下部「えー住民を隔てる高い壁はこういった住宅街にまで伸びてきています。そしてこちらの住宅なんですけども、裏庭にあたる部分、その頑丈なネット、これはですね、火炎瓶ですとか、投石を避けるためのものです。過去の両者間の衝突、これがいかにすさまじかったか、激しかったか、それを物語っています。」

ナレ「3年前に行われた国民投票で、イギリス全体はEU離脱が過半数を占めたが、北アイルランドでは、逆に半数を超える56%が残留を支持した。EU残留派で、アイルランド統一を目指すシンフェイン党の政治家に聞くと」

シンフェイン党カオイム・アーチボルド氏（吹替）「私たちの政党では、北アイルランドの和平合意を踏まえたいうえで、アイルランド島の再統一を目指しています。この島の人々にとってより良い将来を望みます。EU離脱は間

違ってきます。経済、社会、文化、全てにおいてよくないです。」

ナレ「一方、EU 離脱派で、イギリスへの帰属を掲げる民主統一党の政治家は」

民主統一党ジム・ウェルズ氏（吹替）「北アイルランドのほとんどの人は、イギリス人のままで居たいそのことを私たちは常に明確にしてきました。それが許されるべきであると。」

ナレ「イギリス議会で議論されている離脱協定の中で、民主統一党が強行に反対していることがある。イギリスが EU と関税協定を結べないまま、離脱した場合でも、アイルランドとの国境に新たに作らなくても済むための、安全策。離脱後の北アイルランドだけが EU のルールを一部受け入れ続けるという条項だ。この安全策をどう政策するかが、離脱を巡る最大の争点となっている。」

ナレ「民主統一党は、これではイギリス国内が分断されると、主張する。」

ジム・ウェルズ氏（吹替）「私たちが嫌なのは、イギリス国内に境界線が 境界線が 引かれることです。日本の島の間国境ができたらどうですか。いやでしょう。イギリスの中で、北アイルランドだけ EU の管理下に入り、他は縛られる自由にできることになります。これには断固反対です。イギリスから北アイルランドに入る物品は税関を通さなければならないなんて、私たちは容認できません。」

ナレ「一方、グレートブリテン島。ロンドンの北東にある人口 6 万 5000 人の街、ボストン取材した。」

日下部「ロンドンから車で 3 時間ボストンの街にきました。前回の国民投票で、EU 離脱派が 75% を超えたイギリスでもっとも、離脱を求めた町です。」

ナレ「国民投票からおよそ 3 年、街の人に聞いてみると、」

"肉屋の男性「コンチニハ！」

日下部「こんにちは。はっはっは」

肉屋の男性（字幕）「EU 離脱について聞きたいの？」

日下部「yes,yes」

肉屋の男性（字幕）「関心ないです。」

日下部（字幕）「関心ないのはどうして？」

男性（字幕）「議会がダメだからもううんざり我々は政治はやらない。必要なのは金を稼ぐことだけ。」 "

"日下部（字幕）「ボストンに住んでいますか？」

夫婦（字幕）「ええ。」

日下部（字幕）「EU 離脱について聞いてもいい？」

男性（吹替）「いやー興味ないです。」 "

ナレ「ボストンには、2000 年代初頭に、ポーランドから大量に移民が流入。いまでは 20 台 30 台のおよそ半数が移民と言われている。国民投票で、EU 離脱に投票した人の中には、移民に職を奪われ、イギリス経済が EU に足を引っ張られているという不安を持つ人が多かった。」

女性（吹替）「もし EU の移民がこの街にあれほど一気に入ってこなければ、離脱には投票しませんでした。」

"日下部「受け入れる態勢が整っていないってことですか？」

女性（吹替）「ええ。大勢の人々が本当に一気にやってきたので、対応できなかった。私たちには医者が足りないし、病院にかかるのが大変なんです。ロンドンとは事情が違います。」 "

"日下部「Hello！」

男性「Hello！」

ナレ「ボストン近郊で農業を営むデービッドさんは、離脱に投票した 1 人だ。」 "

"日下部（吹替）「このトレーラーは何に使われる？」

デービッド氏「because calaban.」

デービッド氏（吹替）「イチゴの収穫を手伝ってくれる人たちが住んでいます。」 "

"日下部「so how this time?how many brikkars?(収穫期には何人の労働者が?)」

デービッド氏（吹替）「20人ほど学生が働いています。若者が農園にいるのはいいですよ。よく働いてくれるし、頭もいい。彼らも稼ぐことができます。イギリス人よりも給料が安いわけではありません。イギリス人の労働者が見つからないのです。だから彼らに働いてもらっています。」 "

ナレ「農場ではイチゴや麦などを栽培している。収穫には、東ヨーロッパから来た移民の労働力が欠かせないという。」

デービッド氏（吹替）「彼は、ブルガリアから来たラドです。彼は今は一年中、ここにいます。夏の間はこの責任者をしてもらっています。」

ラド氏（吹替）「ここに来て6年です。こんなに長くいるとは、思いませんでした。夏の2カ月間のだけの予定だったのですが、ここも気に入ったし、デービッドもいい人ですからね、いいボスですし、僕の友達です。」

ナレ「移民に支えられて農業をしているにもかかわらず、デービッドさんが、離脱を支持する理由は何なのか。」

デービッド氏（吹替）「父親の世代がEUに加わったのは、自由貿易のためです。物が自由に行き来できるのはとても良かったのですが、それだけではなくなくなってしまったことが嫌なんです。EUが東にどんどん拡大していく。その在り方に疑問を感じたのです。」

ナレ「その一方で、農家である限り、移民の労働者の存在は欠かせないという複雑な現実がある。」

デービッド氏（吹替）「私が、言っていることは矛盾しています。離脱すれば農家としては不利になります。外国人労働者が必要ですから。でも私はEUの一部であることが嫌なので、ちょっと矛盾したことを言っているのです。」

ナレ「ボストン市内でカフェを営むアントンさん。彼も離脱派だ。何も決められない政府や議会にいら立ちを募らせている。」

"日下部（字幕）「先週は何があったんですか？」

アントン（吹替）「ボストンの街で政府のEU離脱への対応に抗議するデモが実施される予定でした。しかし残年ながら、参加者はわずか8人でした。」

アントン氏（字幕）「どうぞいらっしやいませ。」 "

ナレ「客との、間でEU離脱問題について会話を重ねてきたが、最近は市民の熱も冷めてきたと感じている。」

アントン氏（吹替）「お客さんの多くはイギリス人で、今でもEU離脱が実現することを望んでいます。しかし残念ながら、彼らはもう政府を信用していないし、今の状況が分からなくなっています。」

"日下部（字幕）「考えを変えた人がいる？」

アントン氏（吹替）「そうです。多くの人が考えを変えたのは間違いない。その大きな要因は離脱を巡る政府の対応の仕方です。それに対して、人々は満足していない。市民は今、岐路に立たされているのです。」 "

VTRをうけてスタジオと中継では以下に朱記したやり取りが繰り返された。

日下部「えー再びロンドンです。こっからはですね、ロンドン支局長のアキバさんとお伝えしていきます。ふたたび延期これからどうなるのでしょうか？」

アキバ支局長「メイ首相としてはですね、なるべくはやく離脱協定を議会で承認してもらって、できればこの5月の下旬にあるEUの議会選挙でイギリスが参加するようなことは避けたいと思っています。そのためには、議会で多数を得ないといけないので、今、野党の労働党と交渉してるんですけども、やはりやっぱり二大政党制で角を突き合わせてやってきただけに、妥協が下手なんです。で、このまま何の結果も出ずにですね、交

渉が続いていくと、まあ半年後にまた同じような離脱に関する話をここでしている可能性もありますね。」

日下部「この後、このままダラダラ決まらないと、どんな悪影響が課題になりますか？」

アキバ支局長「そうですね、やっぱりイギリス国内の人々の分断というのが、やはり懸念されます。残留派の人たちはですね、離脱派の人たちに対しですね、まあ排外主義とかですね、それから自国優先だとか、それから経済的なインパクトのことだとか、よく分からない投票してしまったしょうのない人たちだというような若干こう上から目線で見ているような所があるんですね。それにたいしてやっぱり離脱派の人たちは、敏感に反応しますし、私だってちゃんと分かって投票したんだと、で残留派の人たちは EU とつるんで金儲けをしているようなやつなんだというような、またレッテルを張り返すと、もうそれぞれがそれぞれの思いや理由があって投票したはずなんですけども、自分と意見が違う人たちをですね、やっぱひとからあげにして敵視するような物言いが横行していてですね、これが離脱に関する議論がどんどんずれていくと、それだけ深まっていく。あるいは亀裂が大きくなっていくと、というようなことが懸念されています。」

膳場「日下部さん。あの今回はイギリス国内だけではなくて、アイルランドとの国境も取材していましたけれども、どんなことを感じましたか？」

日下部「はい、あの北アイルランド紛争にですね、終止符を打った 1998 年のベルファスト合意。私これをですね、外信記者として、原稿にしたことを覚えています。そしてその合意に至ったもっとも大きな理由の一つがですね、EU 統合の大きな流れだったんですね、それから 21 年経って、再びアイルランドの国境問題がクローズアップされている。なぜか何かですね、こう時計の針が逆戻りしてるそんな感じがします。あともう一つですね、離脱派が大勢を占めるボストンの街のことをお伝えしたんですけれども、私たちが会った人たち、ボストンでですね、決して排外主義者でも、不寛容なひとでもありません。地方の小さな都市にですね、許容量を超えた外国の人が一気に入ってくると一体何が起きるのか、いつまでこう寛容でいられるのか、こうした問題というのは、もしかしたら、近い将来、我々日本人にも突き付けられる問題なのかもしれません。そんなことを感じました。以上ロンドンでした。」

放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

確かに上野千鶴子名誉教授の祝辞は話題を呼んでおり、検証者の周囲でもそれが話題となることがあった。上野千鶴子名誉教授が東大生の男女比に言及した部分については、東大合格者数の多い高校にそもそも男子校が多いことや、そもそも合格最低点を上回ることが合格の条件であるのだから男女の平均点のみの議論に意味はなく、分散やその得点分布まで見てやらなければ不十分だとする意見や、そうした統計上の概念を意図的に混同していたのであれば悪質であるし、そうでなく無意識に混同していたのであれば学者としての見識を疑うなどといった批判的な意見も検証者の周りでは確認されていた。たしかに「話題を呼んでいた」というのは事実なのだが、それが必ずしもポジティブな意味合いとは限らないということには留意が必要だろう。

・【特集】 ゴーン事件～深層に何が

VTR では木谷氏が「捜査当局が、一方的な情報によって、まああの、有罪視報道っていうかね、もうこれは犯

人、これは間違いないというような情報を、垂れ流してしまっていて、まあマスコミを通じて、国民もみなですね、彼はもう有罪なんだというふうに判断させるような、状況を持っていますからね。有罪視報道ってやっぱり恐ろしいんですよ。マスコミは一致して、これはもう間違いないと有罪間違いないと真っ黒だという形の報道をするわけです。それで国民みんなそう思っちゃうわけですよ。ところが無罪になると、警察はなぜ間違えたんだといっって、逆に今度はマスコミがね、検察を責めるんですけども、どうもね、その辺がちょっと問題があるとおもいますね。」とコメントしていたが、検察や捜査当局の一方的な情報に乗せられて有罪視報道を行い国民世論を煽り、無罪判決が出た際には逆に検察や警察を批判したり国民世論の検察警察批判を煽っているのはメディアであり、そうしたメディアのある種の無責任さに対する批判的な言説をカットせずに取り上げたという点は評価できると言える。有罪視報道や疑惑報道については、やはりメディアは慎重になるべきであるし、そうした前報道に反して実態は潔白であったり無罪であった場合にはメディアはそうした前報道を深くお詫びと反省をし、疑いをかけられていた人物の名誉の回復に努めるべきであろう。

スタジオで金平キャスターが「そうですね、あの一率直でしたよね。あの特に木谷さんがね、裁判官もね付度するんですよって言う風に発言したのがちょっと正直驚きましたね。」とコメントしていたが、検察と裁判所の共同歩調や「付度」の背景には「判検人事交流」の存在があると言われていたが、そうした点には切り込まれていなかった点はやや残念であった。